蘭越演劇実験室
上演戯曲集 1

作　渡辺たけし

「蘭越演劇実験室」とは

演劇カンパニー「蘭越演劇実験室」は、人口わずか５千人の北海道蘭越町で旗揚げされた。

上演するインフラがない町のため、発表会場は、カフェ、パン屋、民家、倉庫などと多彩。

上演する戯曲も、参加者とのワークショップで創作された。

カンパニーが初期におこなった公演戯曲を掲載する。

戯曲１「しゅうまつのよてい」　上演記録

作・演出　渡辺たけし
日時　2009年12月13日　18時30分開始　20時終了予定
場所　木工房カフェ「yunocafe」(北海道磯谷郡蘭越町字湯里131 湯ノ里デスク内)
料金　無料　カンパ歓迎
出演　清水金弥　もりゆき　美田有理　西村美紀　中村圭太　渡辺たけし
音楽　瀧口博貴
宣伝美術 岡本千絵
協力 kiichi103　湯ノ里デスク
ゲスト　黒松内アコスティックバンド「サルスベリ」×ハムプロジェクト×小野紫

男はぐったりしている。腹部に血痕がみてとれる。
男は、手足を縛られ、イスにくくられている。
その横では、若者達が数人でＵＮＯをしている。

青田　なんてうのかな。神経質っていうのかさ。

赤井　あー。わかる。わかる。そんな感じですよね。

青田　ほんと、俺、ああいう人ほんと苦手。もーいーやってかんじだよね。

黄島　スキップ。

赤井　あ、そうそう。あの。こないだもあれなんですよ。ほんのちょっ と、わたしが休憩時間すぎてタバコすってたら、すごいんですよ。白山マネージャーやってきちゃって

青田　あぁ、それやばいね。

赤井　だから、私謝ったんです。すぐに。わるいと思って。こっちあれですよ。あやまってんですよ。それなのに。

青田　おこるでしょ。そうなんだよ。なんていうかさ。まぁ、こっちが悪いのわかるんだけどさ。そうなんだよ。あれなんだよ。

黄島　リバース。

赤井　あれ、どうにかして欲しいです。ほんと。

青田　なんかさ。あんましさ、人の情っていうか、そういうの薄いよね。

黄島　あ、赤井さんですよ。

赤井　あれ、私でした。はい。UNO。

青田　あ、それからさ。こないだもさ。白山マネージャーさ、ちょっと遅れてきたことあったでしょ。なんか、朝、出がけに本社から緊急の電話あったとかいってたけどさ。

赤井　　あ、ありましたね。

黄島　　あ、ドロートゥーね。

青田　　あ、またですか。

黄島　　だって。

青田　　あれさ、絶対嘘だとおもうんだよ。俺の読みでは、絶対、前の日飲み過ぎて寝坊だね。ちゃんと、言えばいいのにね。

赤井　　そう。そうですよ。絶対。あ、あの。あがりです。

青田　　あ、まじですか。

赤井　　はーい。これ、そう取りです。

青田　　さっきから、ずっとだよ。赤井さんばっかり。

赤井　　はぁ。なんか、ですね。

黄島　　あのね。赤井さん。赤井さんって、札幌だっけ。

赤井　　生まれですか。

黄島　　うん。

青田　　札幌だよね。

赤井　　はい。

黄島　　あぁ、いいんだ。札幌って、ありなんだぁ。そうかぁ。

赤井　　はい？

黄島　　札幌って、ドローフォーであがっていいんですねぇ。

赤井　　あれ、だめでしたっけ。

黄島　　あの、UNOって結構、地方ルールあるとおもうんですよね。

青田　　そういうのあるんですか。

黄島　　いや、私の地方はですね、絵柄のカードとかだと、あがれないルールだったんだよね。だから、私てっきりさぁ。

赤井　　あ、そうですか。ねぇ。

青田　　あ、はぁ。

黄島　　あ、でもいいの。いろいろ地方ルールあるから。

赤井　　あ、そうですか。じゃぁ、あの、これ、上がりなしにして続けますか。

黄島　　いや、いいの。ここは、ほら。あれ、青井君って、札幌。

青田　　いえ、あの、神奈川ですけど。

黄島　　あ、そうだよね。こないだ、そんな話ししたもんね。私、三重ななですけど。あ、三重って、あんまり、なにあるのって聞かれると説明できないんですけど。三重っていうか、私の住んでいたところはですね、あがれないんです。神奈川もいいんだ。ドローフォーあがり。

青田　　いや、別に、そういうのは、あんまりきにしたことないですけど。あ、じゃぁ、ちょっと今のなかったことにしますか。

赤井　　あ、私も、どっちでも。

黄島　　あ、別にいいんですよ。大事ですから。大事だとおもうんですよね。その土地のルール。

赤井　　いや。別に、いいですよ。今のなしで。全然。

黄島　　でもね。それだと、赤井さんに悪いと思うんですよ。

青田　　じゃあ、今回はドローフォーでもあがりはありでですね。次回から、あがりはなしってことで。ね。

赤井　　あ、私、どっちでも。

黄島　　あれ、だから、赤井さん、本当は納得してないんでしょ。ちゃんと納得してやったほうがいいと思うんですよね。私、こういうことも。

赤井　　だから、どっちでもいいんです。

青田　　あのさぁ。あのですね。次いきましょう。次。あ、それからさ、赤井さん。あれ、ほら、こないださ。白山マネージャーさ。本社からっぽい電話きて、なんだか、謝ってたじゃない。
ほら、先週。（UNOをまた、配り始める。また、ゲーム開始）

赤井　　あー。やってましたね。

黄島　　でね、これ、次のはドローフォーあがりなしってことね。

青田　　え、そうですよね。

赤井　　どっちでもいいです。

黄島　　じゃぁ、黒いカードは。

青田　　あれ、何、あやまってたんだろうね。

黄島　　ワイルド。

赤井　　私、あの人、結構やらかしてると思うんだですよ。

青田　　そう、絶対、やらかしてるよね。

黄島　　ワイルドは、どうするの。

赤井　　どっちでもいいです。

青田　　なんかさ、絶対、あの人、俺たちの知らないところでやらかしてるとおもうんだよね。

赤井　ねぇ。

黄島　ワイルド！

青田　だいぶ、本社の評判悪いみたいだしね！

黄島　ワイルド！

赤井　絶対、よくないですよ！

気がつくと、後ろに白山がいる。
両手は、たくさんの食料でふさがっている。
肩には、銃。

白山　そうね。良くないみたいね。

黄島　ワイルド。

青田　あ

赤井　あれ。マネージャー。

白山　いや、まいったわ。ほんと。大変、これとってくるの。

黄島　あの、白山マネージャーききたいんですけど。白山さんって、小樽出身ですよね。ドローフォーってあがれます。

白山　あんたたちみたいなね、いい従業員ばかりあいてにしてるからさ、ホント、私の評判さがるんだよね。ずんずん下がるのさ。ね。

赤井　続きやりますか。

青田　あ、黄島さん。

黄島　でも、そういうのちゃんと、しときたいの。

白山　楽しそうですね。誰かのわるぐちいいながら、UNOですか。こっちは、死と隣り合わせで、食料とりにいってきたのにね。

青田　配るよ。

赤井　はーい。

白山　で、どういうの。これ。

青田　だから、白山さんの話ししてたわけじゃないですよ。

白山　違うよ。この人。

青田　ジャンケン。

黄島　で、今回は、ドローフォーあがりは。

赤井　どっちでもいい。

白山　この人、どうしたのって聞いてる。

青田　まだ、大丈夫みたいですから。

赤井　さっき、噛まれたばっかりみたいですから。

黄島　白山さんも一緒にしませんか。

白山　いい。ちゃんと説明して。

青田　あっちの橋んとこに、倒れてたんです。

赤井　あの、青田さん。海好きですか。

白山、ぐったりしている男をゆするが起きない。

白山　捨ててきて。

青田　そう言うわけにはいかないでしょ。

赤井　こういうの終わったら、青田さん、海いきたいですねぇ。

白山　いつ終わるの、こういうの。だめでしょ。これ、まずいのわかるよね。

青田　こっちまわりね。

黄島　白山さんとこって、ワイルドはあがれるんですか。

白山　どっちでもいい。

黄島　小樽って、どっちでもいいんだ。

赤井　あれですか。神奈川って海水浴場あるんですか。

青田　あるよ。

赤井　なんか、いいですよね。湘南とか、そういうのですよね。

青田　２

白山　この人も外にいるやつらみたいに、なったら、あんたたちちゃんと始末できるんだよね。

青田　でもさ、血流して倒れてるのに、だまってるわけにはいかないですよね。

黄島　リバース。

赤井　私、結構、水の中とか大丈夫なんです。青田さんって、うまそうですよね。

青田　だめ。おれ、泳げないし。

白山　そうだよね。ぜんぜん、泳げないもんね。

黄島　リバース。

赤井　うそ。泳げないなんて。ぜんぜん、大丈夫そう。

青田　　だめなんだよ。

白山　　そうだめなのこの人、ぜんぜんおよげないの。

赤井　　私、教えてあげますから。

黄島　　ドローフォー。

　　男、もぞもぞと動き出す。泣いている。
　　噛まれた部分がいたいらしい。

白山　　だから・・・。

青田　　どうだったんですか。

白山　　なにが。

青田　　そと。

白山　　そとのなに。

青田　　そとは、そとでしょ。

白山　　いっぱい。

青田　　やっぱり。

白山　　あいつらばっかり。生きてる人間なんて、もういないよ。

赤井　　私、教えてあげますから。泳ぎ。

白山　　もう、泳がないよ。私達。たぶん。

赤井　　私、得意ですから。泳ぎ。小学生の頃から。スイミングスクール。ずっと、得意ですから。スイミングスクール。

黄島　あの。

青田　え、はい。

黄島　カード。４枚取ってください。

ドアをノックする音。

白山　大丈夫。鍵しめてあるから。

青田　でも、これ。

白山　外には、死んでるヤツしかいないんだよ。死んでるヤツしか、あるいてないの。

青田　いや、それは、あれなんだけど。まだ、どっかに俺たちみたいに生きてる人間がいて、そういうことあるかもしれないじゃないですか。

ドアのノックの音、さらに大きくなる。
赤井、はしっていって、どあをあける。
ドアから灰谷入って来る。

灰谷　あ、あの。すみません。

皆、黙っている。UNOをづけている。

灰谷　あのですね。あの、ここなんですけどね。

白山　あ、とりあえず。

灰谷　あの（イスの男を指さす）、彼なんですけどね。

白山　知り合い？

灰谷　あ、同僚なんです。あの、橋の向こうのスタンドにですね。

白山　　そう。

灰谷　　そこに、彼の車あったもんですから。たぶんですね。ここかもと 思ってですね。そしたら、皆さんがですね。あの、皆さん。

赤井　　あの、ここ、安全ですから。結構。

青田　　なんか、ここ、まだ、あいつらにみつかってないみたいです。

白山　　時間の問題だけどね。きっと。

灰谷　　いいでしょうか。

白山　　なに？

灰谷　　あの、お仲間にいれてもらっていただいても。

黄島　　いいですよ。でも、先に確認しておきたいんですけど。あなたの町はドローフォーあがりありですか。なしですか。

灰谷　　はい？

赤井　　黄島さん、たぶん、ちがいますよ。

灰谷　　どこいっても、ほかの住民、みんな、あんなふうになっちゃってたんです。ですから、ここ、いさせてもらっていいですか、というようにですね。

白山　　どっちでも。お好きなように。

灰谷　　あ、ありがとうございます。

青田　　あ、いいと思いますよ。もう、あんまり、どうせ、生きてる人間いないし。

黄島　　やりますか。一緒に。あの、これUNOっていうんですけど。

灰谷　　あ、はい。

白山　　しりあいなんだよね。

灰谷　　あ、はい。同僚なんですよね。橋の向こうのガソリンスタンドで一緒に働いてますっていうか、ましたっていうか。あの、昨日まで。はい。

白山　　噛まれちゃったみたいなんですよね。

灰谷　　え。といいますと。

白山　　噛まれちゃったみたいですよ。

灰谷　　というと、やっぱり、あいつらに。

白山　　あいつ等以外に、誰にかまれるんですか。

灰谷　　あいつらに・・・あのですね、なんて呼んでますか。

白山　　え？

灰谷　　あのですね。あいつらのことなんですけど。

白山　　別に。

灰谷　　なんて呼ぶルールなんですか。ここはでは。

赤井　　やっぱり。

青田　　ゾンビ。

白山　　ルールっつうか。

灰谷　　あのですね。もともと、ゾンビって、サモア諸島のですね、呪術でよみがえった魂のことをですね、いうらしいんですよ。ゾンビっていう呼び名はですね、８０年代の映画の影響らしいんですよね。あれは、映画会社が勝手につけた呼び名でですね。だから、この場合はですね。その名称はですね、あまりよろしくないんじゃ・・

白山　　あの。

灰谷　　はい。

白山　　なんでもいいんじゃないですか。

灰谷　　あ、はい。

青田　　あの、結構前にかまれちゃってて。

白山　　あの、お願いなんですけど。

灰谷　　はい。

白山　　処分っていうか、どうにかしてもらえますか。

青田　　白山さん。

白山　　え。なに。

青田　　だって。

白山　　え。なに。

青田　　だって。

白山　　え。なに。

赤井　　青田さん。

黄島　　青田君の番だよ。

青田　　ちょっと待って。

黄島　　はーい。

青田　　まだ。生きてるわけでしょ。処分とかさぁ。

白山　　もうだめでしょ。

青田　　わかんないでしょ。

白山　　みんなだめでしょ。

青田　　そうだけどね。

白山　　そうでしょ。

青田　　そうだけどさ。

白山　　じゃ、どうするの。

青田　　そうだけどさ。

白山　　どうすんの。

青田　　でもさ。

灰谷　　ちょっとですね。あのですね。

　　灰谷、男のそばによる。

灰谷　　あの、大黒さん。あの、大黒さん。・・・あ、だめみたいですね。

青田　　え。

白山　　ほら。

青田　　ほらっていうか。

赤井　　あのですね。ちょっと、どうかとおもうんです。

白山　　なにが。

赤井　なにがっていうか。

灰谷　あの、大黒さん。あの、大黒さん・・・やっぱりだめだ。だめみたいです。

青田　あなたも、だめっていうかさ。

黄島　あの、青田君の番ですけど。

青田　もう、黄島さん。

灰谷　いや、どうしましょう。大黒さん。

白山　じゃあさ、とりあえず、わかったわ。あのね、私、ここ出るから。あと、頼むね。

青田　白山さん。

白山　だって、放っておいたら、この人、大村さん。

灰谷　大黒さん。

白山　大黒さん。まずいでしょ。噛まれてんだよ。死んだら、あれになるんでしょ。ゾンビ。

灰谷　ここでは、そう呼ぶルールになったんですね。

青田　ルールとかないから。

白山　ガソリン、まだ、あったよね。ワゴン。

黄島　UNO終わりですか。

青田　僕ら、どうするの。

白山　僕ら、どうするの。

青田　白山さん。

白山　　僕らは、すきにしたら。行くか行かないかは、僕らできめて。

赤井　　どこに行くんですか。

白山　　どうしよう。

青田　　どこいっても、もう、生きてる人間いないですよ。

白山　　札幌とかいけば、まだ、いるかもよ。

青田　　もたないですよ。ガソリン。

白山　　でもさ、ここいてもさ。・・・なに黒さん？

灰谷　　大黒まさき君です。

白山　　大黒さん、たぶん、あばれだすでしょ。もうすぐ。

赤井　　でも、放っておくのも、なんいうか、人間っていうか、人間としてどうかとおもうんです。

白山　　いつまでを人間と呼ぶかは、難しいけどね。私、行くよ。

灰谷　　あの、僕も行きます。

青田　　ちょっと。

黄島　　あの。皆さん、どこかいくんですか。

青田　　聞いててよ。話。

黄島　　だいたい聞いてましたけど。

白山　　どうすんの。青田君は。

青田　　なに、それ。

白山　　私は、いくけど。青田君は。

青田　　え、それはさ。

白山　　どっちでもいいけど。青田君は。

青田　　ずるくない。

白山　　一緒にいくの。いかないの。青田君は。

灰谷　　私は、いきますけど。

青田　　でもさぁ。

赤井　　あの、私、青田さんと残ります。

青田　　え。あ、そう？

白山　　あ、そう。残るんだ。

青田　　いや。だからさ。

赤井　　白山マネージャーは、自分で思うようにやったらいいとおもうんですよね。あなたは、そういうふうな感じで、人の尊厳とかそういうこと、踏みにじるみたいな感じだと思うんですけど、わたし、そういうのだめですから。ゆるせないっていうか。ねぇ、青田さん。

青田　　うん。

白山　　そうだね。尊厳とかね。踏みにじるわ。だよね。踏みにじるわ。

青田　　うん。

白山　　いいんだよね。

青田　　・・・

赤井　　青田さん？

黄島　で、結局、皆さん、どうすることにしました。続けます？UNO。

灰谷　とりあえず、いったん、やめるみたいですよ。

黄島　えー。私、あと、二枚だったのに。

白山　じゃ。

灰谷　あの、お世話になりました。大黒さんにも、お世話になりました。

白山　本当にいいんだよね。まあちゃん。

青田　だからさ。

白山　いっちゃうよ。

赤井　あれ。

白山　なに。

赤井　まぁちゃん、つってました。

白山　言ってないよ。いくよ。まぁちやん。

青田　あのね。赤井さん。

赤井　はい。

青田　あのね、赤井さん。

赤井　はい。

青田　あのね。あのさ。行くよ。

赤井　え。

白山　はやく。

白山、青田の手をひいて行ってしまう。

青田　ごめんね。赤井さん。

赤井　え。あ。はい。

灰谷　大変、お世話になりました。

灰谷も行ってしまう。

赤井　それ。そういうことかよ。

黄島　あのね。

赤井　それ。そういうことかよ。

黄島　赤井さん。

赤井　それ。そういうことかよ。

黄島　あのね。赤井さん。やる？UNO。２人だけど。

赤井　あほか。

黄島　２人じゃないか。あのひといれたら、何人？２．５人くらい。

赤井　あほか。

黄島　やる？UNO？２．５人で。

赤井　やらない。

黄島、男のそばによる。
男、静かに立ち上がる。

黄島　　あ。あの、おたくの地方ルール、ドローフォーあがりは、あり？なし？

男、顔をあげる。
音楽、ＣＩ
急速に暗転と幕

戯曲２「おしまいのことば」　上演記録

＜ゆのかふぇらいぶ＞
作・演出　渡辺たけし
日時　2010年10月31日　19時開始
場所　木工房カフェ「yunocafe」(北海道磯谷郡蘭越町字湯里)
出演　清水金弥　もりゆき　芳賀琴絵　渡部尚幸
協力 kiichi103　湯ノ里デスク
ゲスト　藤☆sun／ユイ＆マイコ

＜近藤ドームハウスのオープンマイク＞
日時　２０１１年２月５日　18時
場所　近藤ドームハウス(ニセコ町近藤地区)
出演　清水金弥　もりゆき　芳賀琴絵　渡部尚幸

＜長万部「おんがくとおしばいのかい」＞
日時　２０１１年２月６日　　14時
場所　クラフトたかの(長万部町字栗岡)
ゲスト　黒松内町サルスベリ／芳賀健太・暁・阿知波一道
出演　清水金弥　もりゆき　芳賀琴絵　渡部尚幸

2010年11月16日 ＡＦＦ通信社の記事
題名　最後の話し手が死亡、消滅危機言語の一つが絶滅 北氷洋に浮かぶ島国の言語・ウガル語

北氷洋南西部に位置している島国ウガル国に暮らしていた、人類最古の文化の１つの末裔だと考えられている部族・ウガル族、その最後の１人が死亡したことが明らかになりました。
　イギリス・ロンドンに本拠を置き、世界の部族のためのロビー活動を行っているサバイバル・インターナショナルが2010年11月4日発表したところによると、ウガル語の最後の話し手、アラル・ロロアさんがその前の週、85歳前後で亡くなったということです。
ウガル語を話す人々は約6万5000年前から北氷洋のワラール島で暮らしていたとの説もあります。
この島が植民地されていた1858年の時点で、ウガル語派の言語を話すウガル族ら10部族の人口は5000人強でしたが、その多くが殺されたり、病気で亡くなったりしたため、ウガル語を話せる人間は、今回亡くなったアラル・ロロアさんひとりでした。
今回亡くなったウガル族のアラル・ロロアさんは2004年12月の大津波も体験しています。そのことについてボアさんは、取材した言語学者に対し次のように語ったということです。
「地震が起きた時私たちは全員その場にいた。長老が私たちに『大地が裂けるかもしれないので、逃げたり動いたりするな』と言った」

戯曲「おしまいのことば」motif2 星の消滅と言語の消滅

A　その日も僕たちは、軽自動車の中で星を眺めていました。僕の隣には、そう、彼女が座っていました。いつものように。そして、彼女はやはり、そう、いつものように煙草を加えていました。
僕も煙草に火を付けました。煙を逃がそうと窓を開けました。車の中から、臭いが嫌だから、そうしたら、海風が吹き込んできました。そろそろ寒くなってきた時期だったから。
「北極星」
そういって、彼女は空を指さしたんです。たぶん、その辺が北だったし、その星っていうか、星ですよね。一番、大きく光っていたから。
軽自動車はちょっと暗い感じだったので、彼女の顔はよく見えなかったんだけど。結構、みつけて、そう、喜んでいる感じでした。北極星。
僕、それで言ったんです。そう、思い出したから、昔ちょっと聞いたことある話しだったので。こんな感じです。
「あのね。昔、ラジオで聞いたんだけど。北極星ってね、もうないんだよ。ホントに。北極星まで、何千光年も離れているでしょ。だから、光が届くまでね、何千年もかかるわけなんだよね。」
そうしたら、彼女、こういうわけです。言ったわけです。
「北極星ってさ、何千光年も離れてるの、それって、遠いかな」
だから、僕言いました。
「ラジオの人が言ってたんだよね。たしか、こんな感じ。『北極星は、地球から数千光年離れています。ですから、今私たちが見ている光は、数千年前にピカッと光った光なわけです。実は、北極星は、すでに星の寿命を向かえて消滅したと言われています。ですから、数千年前の光が、現在、地球に届いているわけですが、』って言うような感じで、だから『ですから、北極星は存在しないのに、数千年前に光った光だけが、今も地球に届いているのです』みたいな感じかな」
そしたらですね、彼女はいいます。っていうか、言いました。もしかしたら、あんまり興味のない話しだったのかもしれないけど。若干。
「なにそれ」
「え、あぁ、そう。あんまり、おもしろくない」
「いいや、面白くなくない。面白い」
「そう、どの辺が」
「北極星がすごく遠くにあるってことが」
って、言うんですね。彼女。そういう事じゃないんだけど。
「あのね、星が光ってるのに、当の本人の星がないないってことがね、

もうないってことが面白いと思うんだけど」
「そうだね。面白いね」
彼女は、暗い軽自動車の中で、笑った気がしました。暗くて、見えなかったんですけど。よくは。
その死亡記事を聞いたのは、ラジオで聞いたのは、その時でした。そんなような話しをしていた時でした。その、北氷洋で、言語が、最後に話す人が、亡くなったらしいって、どうやら。

B　海にいたんです。夜。暗い感じ。だいぶ。暗い感じ。彼と一緒に海を見てました。暗い。夜。海。そんな感じで。結構、暗いんです。
すってました。煙草。そう、煙草。すってたんですね。
そしたら、多分なんですけど、そうだと思ったんです。
「北極星」
って、指さしたんでね。結構、きれいだった。北極星。うんうん。
彼が言った。
「あのね。昔、ラジオで聞いたんだけど。北極星ってね、もうないんだよ。ホントに。北極星まで、何千光年も離れているでしょ。だから、光が届くまでね、何千年もかかるわけなんだよね。」
面白いわけですよね。私としては。そういう話しって、嫌いじゃない。話し。だから、うんうんってきいていたんだけ、ど話し。
光が届くまで、千年とか何千年とかかかる。ちょっと学校で理科の時間で聞いたことあるんだけど。だから、ちょっと知ってたんだけど。
「北極星ってさ、何千光年も離れてるの、それって、遠いかな」
って聞いた。すごく興味があったから。好きだから。そういう話し。うんうんって私、楽しくて、結構ウキウキで聞いてた。わりと。そしたら、彼話してくれたのね。
「ラジオの人が言ってたんだよね。たしか、こんな感じ。『北極星は、地球から数千光年離れています。ですから、今私たちが見ている光は、数千年前にピカッと光った光なわけです。実は、北極星は、すでに星の寿命を向かえて消滅したと言われています。ですから、数千年前の光が、現在、地球に届いているわけですが、』って言うような感じで、だから『ですから、北極星は存在しないのに、数千年前に光った光だけが、今も地球に届いているのです』みたいな感じかな」
私は、おもしろくて、話しの続きまって端だけど。彼、だまっちゃって。そういう感じで、黙ってるんです。で、
「え、あぁ、そう。あんまり、おもしろくない」
って聞かれたから。

「いいや、面白くなくない。面白い」
って、言ったんだけど、なんか、また、聞かれた。
「そう、どの辺が」
って、言ってくるから。あ、こいつ、私の言ってること、つまらないと思ってるなって思ったから、言ったですね。
「北極星がすごく遠くにあるってことが」
分かってたんだけど、言ったわけ。そしたら、彼、なんかいうわけ。つまらなそうに。
「あのね、星が光ってるのに、当の本人の星がないないってことがね、もうないってことが面白いと思うんだけど」
「そうだね。面白いね」
それ、本心。本心なんだけど。本当に面白いんだけど。うまく伝わってないなと思ったから、煙草、付けた。火、つけた。そして、窓をあけたら、風が入ってきた。海風。
その時ラジオからね。聞こえた。北氷洋。言葉。消滅した言葉。そう、それ。ロロアさん、ルルアさん？、ロロアさん。ウガル族。ウガル語。私も、彼も真剣に聞いてた。その死んでしまった言葉の話。そのラジオの音と一緒に聞こえてた。そう、聞こえてた、海の音。

C　北極星は、地球から数千光年離れています。ですから、今私たちが見ている光は、数千年前にピカッと光った光なわけです。実は、北極星は、すでに星の寿命を向かえて消滅したと言われています。ですから、数千年前の光が、現在、地球に届いているわけです。北極星は存在しないのに、数千年前に光った光だけが、今も地球に届いているのです。

間

ということが、今までの定説でしたが、現在は諸説いろいろあるようです。結局、天文学者達は、北極星の近くまで探索する宇宙船を出さない限りは、本当のことはわからないんだとしています。
結局、星のことは、星にしかわからない。次にお送りする曲は「星に願いを」です。

戯曲「おしまいのことば」motif3 ノアの方舟

音　光　空気　壁　後悔　安堵　母　世界
父　兄　ベンチ　廊下　窓　夕暮れ　人　そして　また人
におい　ミルク　カーテン　時計　祖母　祖父　しわ　朝露
布　信号　靴　空　青　空　雲　空　太陽
帽子　ランドセル　噴水　写真　いす　机　すみれ　松ぼっくり
台風　自転車　雪　春一番　コンクリート　鉄棒　悲鳴　友達
友情　愛情　アイスクリーム　回転　雨粒　激しく動く僕の心臓
リボン　スカート　ピンク　後姿　髪の毛　指先　手の平　歌声
ポツ　ポツ　ポツ　ポツ　動き出す　メリーゴーランド
消しゴム　鉛筆　嘘つき　虹の橋　国語　理科　仏壇　紅葉
買い物　缶けり　綱引き　サッカー　焼肉　困惑　ツバメ　サイダー
革靴　シャンプー　歯磨き　裏切り　コーヒー　正直　六弦ギター
漫画　ロッカー　氾濫　騒乱　バッジ　クラップ　鈍感　鯖缶
花束　アメリカ　羊羹　地面の暖かさ
雪の積もる音を聞く　星の降る音を聞く　結末と君の体温を知る
港町　道路工事　今日の講義は休講　6時からのバイトに急ごう
満員電車　高圧電線　民間伝承　求人倍率
ロック　定規　ビール　ルール　コール　隣人　遠く　忘却
君の作るパスタ　踊り狂う白夜　色の落ちたタオル　熱に溶けたカルタ
ぴんと張った背筋　そっと笑う羊　昨日と今日と明日の境目
ねぇ、わかっていますか。盲目の魔術師は鳩がだせないわけじゃないんだ。
可燃ごみ　不燃ごみ　ここを抜ける見込みなし
海ほうずき　風見鶏　ごみ収集の日を間違えてはいけません。
かためのパン　借りてきた猫　決別の朝　思い出せない化学式
軽自動車　煙草の煙　滑る海風　クリームソーダ
座る彼女　秋の終わり　空をさした　たぶん北を　光る星一つ
「北極星まで、何千光年も離れているでしょ。
だから、光が届くまでね、何千年もかかるわけなんだよね。」
すると彼女　少し笑い　海の風も　少し笑う
記事　死亡　最後　話し手　消滅　危機　ウガル語　　暮らし
人類　最古　文化　末裔　１人　ロンドン　世界　発表
今回　消滅　言語　人々　定説　植民地　病気　人間
食料　住居　政府　アルコール　依存　大津波　体験　学者
歌う　信じる　使う　開く　飾る　掘り起こす
だます　食べる　隠れる　笑う　飲む　振り向く

走る　投げる　伝える　かざす　見つめる　抱きしめる
歩く　叫ぶ　償う　愛する　立ち止まる　こらえる
息を吸う　息を吸い込む　深く息を吸い込む
虫の音　歌声　靴音　見つめ合う
沈黙　鈍色　ローソク　ここにいよう。
賛美歌　風向き　ここにいた　名残
ただ祈る　ただそこにいる　そして、もういない　ここにいた印
石の形　道の行き先　歩く影法師　揺れるがまの穂
たとえばつまり　この物語　ただ眠る夜　消えた言葉たち
冷たい空に響く、鐘ひとつ

戯曲「おしまいのことば」motif4 手紙

D　この台本を書いた〇〇です。ここまで、今回書かせて頂いた台本を朗読劇という形でやらせてもらってきたんですけれどね。、そうそう、先に役者を紹介させていただきますね。(全員を紹介する)
今回のお話は、言葉が死んでしまうときの物語なんです。実際、世界には六千種類の言語があるといわれており、その内約半数の三千種類が、ここ百年間で消滅してしまうおそれがあるといわれています

（明かりを消して蝋燭をつける）

そして、お芝居はもう少しだけ続きます。この物語に出てくる北の海に浮かぶ小さな島の言語ウラル語なんですけれど。ウガル族のお婆さんがウガル語で最後にかいた手紙を読ませていただこうと思います。
これは、ウガル族の最後の話し手アラル・ロロアさんが、その一年前に亡くなった夫スンニさんに書いたお手紙です。
それでは、いきます。

A　「　私の大切な人たちは
天に召されていった。
すこしずつ、少しずつ。
父、母、祖母、祖父、兄、姉
そして、たくさんの友。
大切なあなたも
昨日ついに、天に召された。
皆、清い心を持った人たち。
天の国でも幸せに暮らしている。
私の息子、娘、孫、そしてその孫。
私たちの言葉を話さない。
新しい言葉しか話さない。
この言葉は、もう誰にも届かない。
あなたと一緒に、
この言葉は天に召された。
歌う　信じる　使う　開く　飾る　掘り起こす
だます　食べる　隠れる　笑う　飲む　振り向く
走る　投げる　伝える　かざす　見つめる　抱きしめる

歩く　叫ぶ　償う　愛する　立ち止まる　こらえる
息を吸う　息を吸い込む　吸い込む　また　息を吸う
夜空を見上げると
輝く星
北極星
ずっと昔に長老が言った。
星の光は、星の記憶。
人の言葉は、人の記憶。
あなた、いままで　ありがとう。
ありがとう。
ありがとう。
さようなら。
ピリテ　エスラ　マテ　ツム　カムツ　プット　カリンテ
カルンタ　ソニマ　クト　ヒタシ　カニツ　コテナ
クンッマ　ソニ　ハトニ　マシニ　トノト　ソマナ
クツ　ス　ナマ　ナニツカ
マト　クート　ソン　カケト　トクタ　トナテ　シニタタ
ムニタ　クニタ　ユウオ　ワケトナ　マタボ　クンダ
ムパン　タナシ　チセ ゾ　クナユ　アナヂ　マンテカ
ムランカチ　クナニ　ンタニ　ムムン　ソンナ　ニマノタ
カニラ　ソンナ　マラジ　ヤアナタ　クラニヤ　トナン
サマニ
サマニ
マテーナ

全員　　そして、すべての言葉は、歌なって天に召される。

幕

田舎劇団　蘭越演劇実験室　上演戯曲集 1

http://p.booklog.jp/book/78928

著者 : watanabee1
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/watanabee1/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/78928

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/78928

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ